

といわれている。家庭生活の合理化・スピード化により、余暇のありすぎる母親は、とかく完全主義に傾き易く、過保護的で、かつ拒否的で共生関係に陥り易くなるきらいがみられる。

では、親、特に母親の養育態度はどうなっているのだろうか。田研式親子関係診断テストから考察してみたい。

表3 母親の養育態度一覧表

No.	拒否型		支配型		保護型		服従型		矛盾・不一致		Y・G
	消極的	積極的	厳格	期待	干渉	不安	溺愛	盲従	矛盾	不一致	
1	▲	▲	△	▲	▲	▲		△	▲	△	E'
2	▲	▲			△	△	△	△	▲	△	E'
3	▲	△	△		△	△		△	▲	△	E
4	△	△									E
5		△	△		△		▲			▲	C'
6	△			△		△		△		△	E'
7	▲	▲	▲		△	▲	▲	▲	▲	/	C
8	▲	△					△		▲	△	C
9	▲							△			D'
10	▲	△	△						▲	△	E
11		△									A"
12	▲	△	△	▲	△	▲	▲	▲	▲	▲	E
13	△									△	AD
14					△		△		▲		C
15		△				△	▲	▲	△	△	E
16	△	▲		△		△			▲		E
17		△	△		△		△	▲	▲	▲	C
18	△	▲									D
19	▲	▲				△		△	△	▲	E
20					△					△	C
21	△			△				△	▲	△	E
22	▲	△	△						▲		E'
23	△	△			△	△			▲	△	E'
24	△	▲				△	△		△	△	E'
▲	10	7	1	2	1	2	4	4	13	4	
△	8	11	7	3	8	9	5	7	4	11	

▲印：危険地帯 20%タイル以下

△印：準危険地帯 20~50%タイル

表3から、Y-G性格検査でE類型の子供が多く出現しているので、この子供の母親の養育態度

を抽出してみよう。

表4 母親の養育態度比較表

区	拒否型		支配型		保護型		服従型		矛盾・不一致	
	消極的	積極的	厳格	期待	干渉	不安	溺愛	盲従	矛盾	不一致
A	37.0	31.4	69.6	55.7	60.0	45.0	64.7	55.4	29.6	37.4
B	34.1	35.4	65.3	58.3	55.8	49.8	56.4	52.9	32.9	39.7
差	2.9	-4.0	4.3	-2.6	4.2	-4.8	8.3	2.5	-3.3	-2.3

A：E類型登校拒否児の母親の平均%タイル

B：登校拒否児の母親の平均%タイル

表3および表4のいずれをみても、母親の養育態度は、拒否型、不安型、矛盾・不一致型でありしかも、E類型児の母親の方が%タイルの数値が低く、よりひずみが多く表出している。

このことから、子供は神経症的傾向に陥り易く現実面から逃避し、忍耐力に欠け、社会的不適応を起こしてしまうのである。

そこで、母親の養育態度の改善が強く要請されるわけであるが、アプローチの方向としては、

- ① 子供の楽しみや活動に興味をもち、共に参加したり、一緒に話し合う時間を持つ。
 - ② 禁止するよりも静かな統制に心がける。
 - ③ 大人の尺度で子供を評価しない。
 - ④ 筋を正し、子供の言いなりにならず、規律を守らせる。
 - ⑤ 夫婦親和、家庭明朗。
 - ⑥ 両親、家族の子供に対する教育方針の一致をはかる。
- などが考えられる。

4. まとめ

登校拒否児をつくらないために、早期発見の手がかりとして、来談した登校拒否児の性格特性とその母親の養育態度について、心理検査を通して考察してみた。その結果、情緒不安定、社会的不適応、消極的内向性をもつ子供に、登校拒否児が出現しやすく、また、そのような性格特性を形成した親子関係のひずみが、大きく影響していることがわかった。

登校拒否という不適応行動が出現する前に、教師は子供を理解し、子供自身に気づかせ、適切な行動が取れるよう援助しなければならぬと思う。